

全般季節予報支援資料 1か月予報

2025年9月11日

予報期間：9月13日～10月12日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項

全国的に、向こう1か月は気温の高い状態が続くでしょう。期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

出現の可能性が最も大きい天候

北日本と東・西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
東・西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

全般1か月予報(確率)

1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低 並 高	少 並 多	少 並 多	少 並 多
北日本	日本海側 太平洋側	10:10:80	20:40:40 20:40:40	30:40:30 30:40:30	
東日本	日本海側 太平洋側	10:10:80	30:30:40 30:40:30	20:40:40 30:30:40	
西日本	日本海側 太平洋側	10:10:80	30:30:40 30:30:40	20:40:40 30:30:40	
沖縄・奄美		10:10:80	30:30:40	30:30:40	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3～4週目(%)
	低 並 高	低 並 高	低 並 高
北日本	10:10:80	10:30:60	10:20:70
東日本	10:10:80	10:10:80	10:20:70
西日本	10:10:80	10:10:80	10:20:70
沖縄・奄美	10:10:80	10:10:80	10:20:70

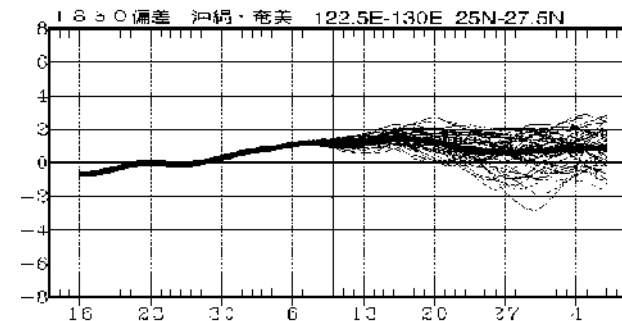
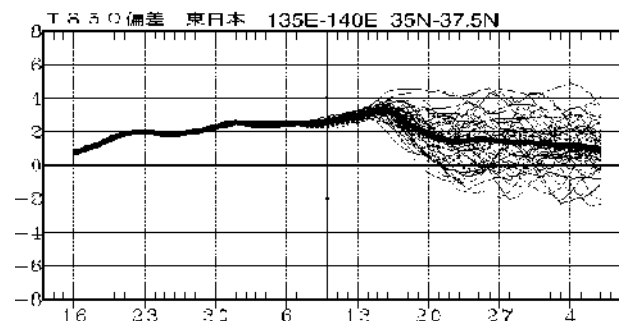
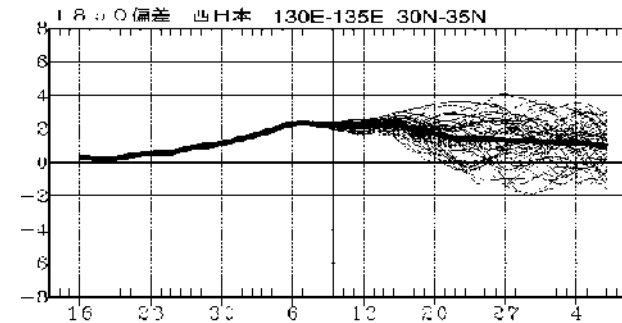
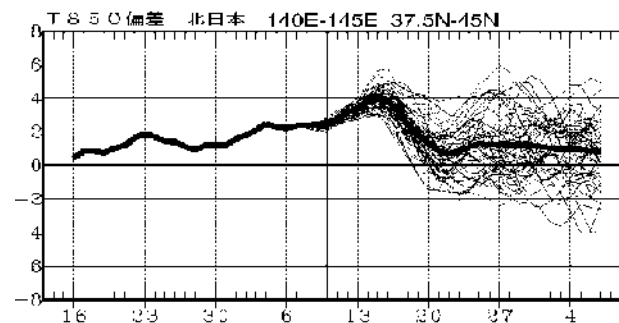
全般1か月予報のポイント

- ・北・東・西日本では6月中旬以降、沖縄・奄美では8月上旬以降、暖かい空気に覆われ、気温の高い状態が続いています。向こう1か月の気温も、暖かい空気に覆われやすいため、全国的に高い状態が続き、期間の前半はかなり高くなる見込みです。
- ・向こう1か月の降水量は、低気圧や前線の影響を受けやすい時期があるため、北日本では平年並が多いでしょう。向こう1か月の日照時間は、高気圧に覆われやすい時期があるため、東・西日本日本海側では平年並が多いでしょう。

各週における天候のポイント(気温)

	1週目(9/13～9/19)	2週目(9/20～9/26)	3～4週目(9/27～10/10)
想定される天候(気温)	暖かい空気に覆われやすいため、全国的にかなり高いでしょう。	暖かい空気に覆われやすいため、全国的にかなり高いでしょう。	暖かい空気に覆われやすいため、全国的に高いでしょう。
根拠	偏西風が北偏して流れる。北日本を中心に、近海の海面水温が高い影響も受ける。(P.8,P12-13参照)	偏西風が北偏して流れる。北日本を中心に近海の海面水温が高い影響も受ける。(P.8,P.12-13参照)	偏西風が北偏して流れる。北日本を中心に近海の海面水温が高い影響も受ける。(P.8,P12-13参照)

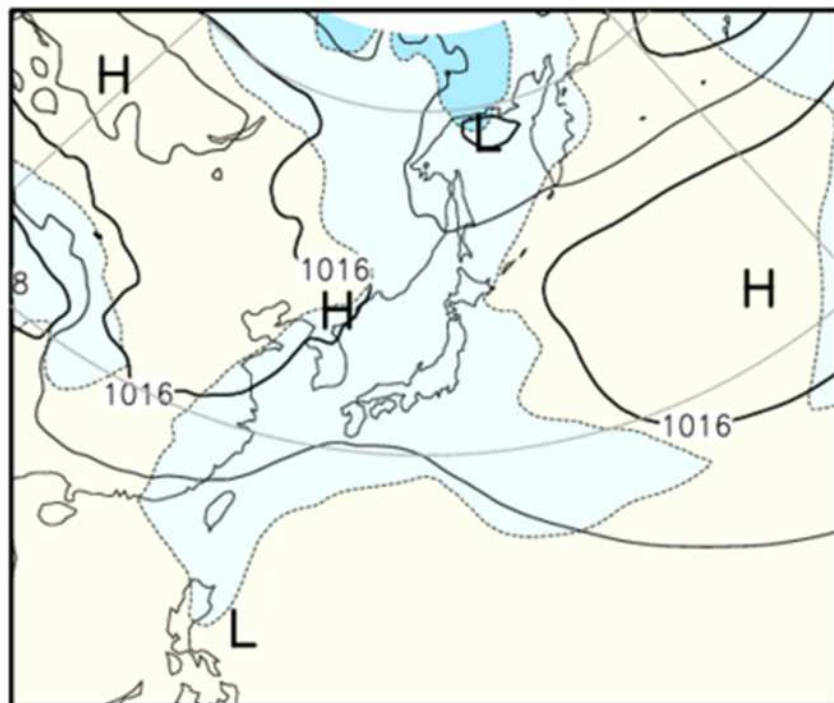
850hPa気温 偏差時系列



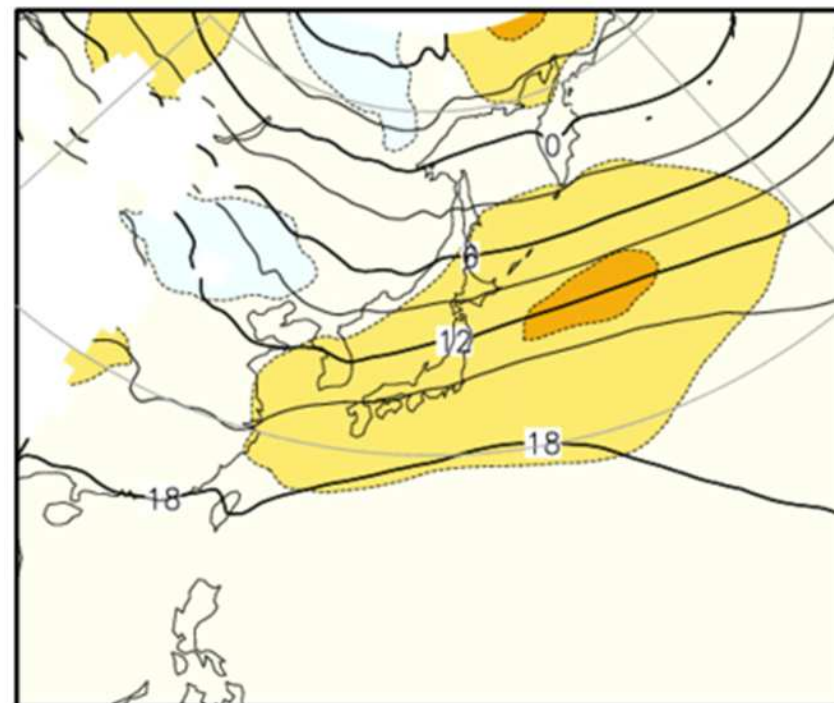
各週における天候のポイント(天気)

	1週目(9/13～9/19)	2週目(9/20～9/26)	3～4週目(9/27～10/10)
想定される 天候 (天気)	北・東・西日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。 沖縄・奄美では、太平洋高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。	北・東・西日本では、天気は数日の周期で変わるでしょう。 沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。	北日本と東・西日本太平洋側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。 東・西日本日本海側では、天気は数日の周期で変わりますが、高気圧に覆われやすいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。 沖縄・奄美では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
根拠	北・東・西日本では平年同様の天候だが、上層のトラフの影響で、北・東・西日本日本海側を中心に低気圧や前線の影響を受けて降水量が多くなる可能性がある。沖縄・奄美では、日本の南で強い太平洋高気圧に覆われやすい。(P.10-13参照)	全国的に平年同様の天候だが、大陸と日本のはるか東で高気圧が強く、その間の日本付近は気圧の谷となって、低気圧、前線や湿った空気の影響を受けやすく、北日本と東・西日本太平洋側を中心に降水量が多くなる可能性がある。(P.10-13参照)	前線帯は日本の南に南下し、東・西日本日本海側を中心に移動性高気圧に覆われやすい。 (P.10-13参照)

海面気圧(1か月)



上空約1500mの気温(1か月)

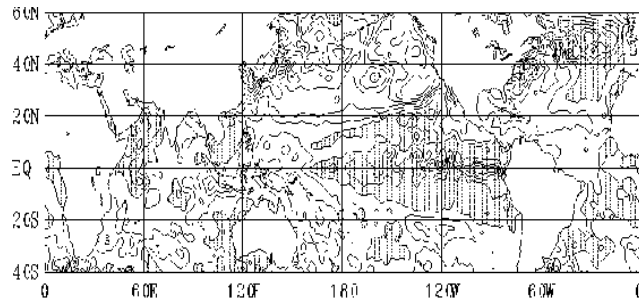


1か月平均の海面気圧(左図)は、大陸と日本のはるか東で高気圧が強く、その間の北・東・西日本付近は気圧の谷となり、期間の前半を中心に低気圧や前線の影響を受けやすい時期があるでしょう。その後は、東・西日本日本海側を中心に移動性高気圧に覆われやすい時期もあるでしょう。沖縄・奄美では期間のはじめは太平洋高気圧に覆われやすいでしょう。

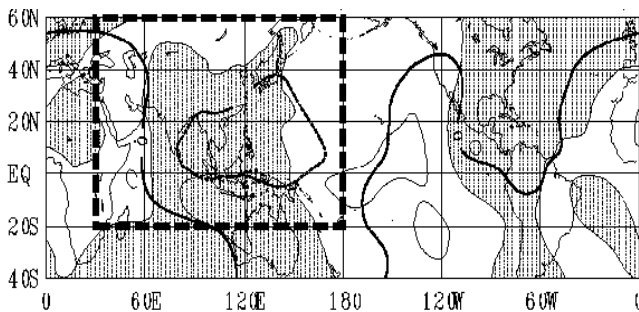
上空約1500mの気温(右図)は、全国的に平年より高いと予測されています。

予報資料の解釈(1か月) 熱帯循環場

SST偏差



200hPa速度ポテンシャル



SST偏差は、ラニーニャ現象的かつ負のインド洋ダイポールモード的な分布。また、日本海から北太平洋中緯度帯で広く強い正偏差。

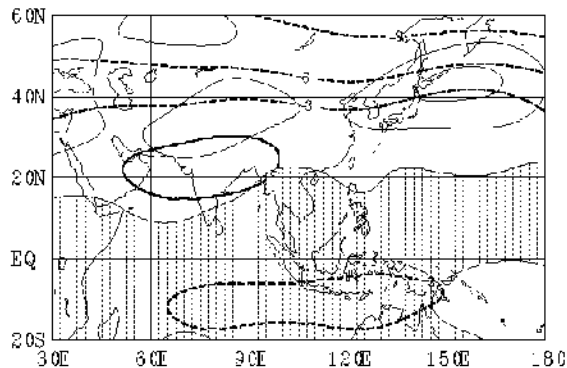
200hPa速度ポテンシャルは、SST偏差に関連し、インド洋東部からインドネシア付近で発散偏差、太平洋熱帯域の中部で収束偏差。

200hPa流線関数は、亜熱帯ジェット気流沿いのロスビー波束伝播の影響もあって、日本の東を中心に高気圧性循環偏差。チベット高気圧の季節的な衰弱が遅い。

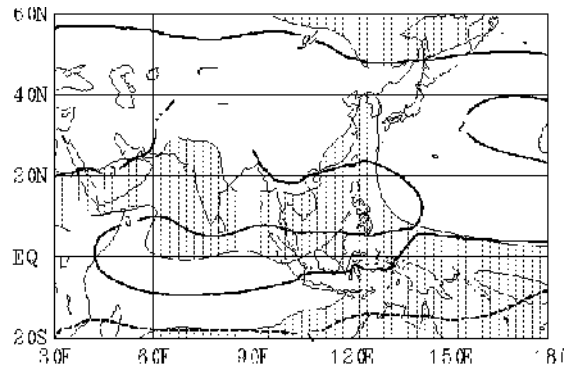
850hPa流線関数は、対流活動に関連し、フィリピン東方海上で高気圧性循環偏差。

降水量は、フィリピン東方海上で少雨偏差。

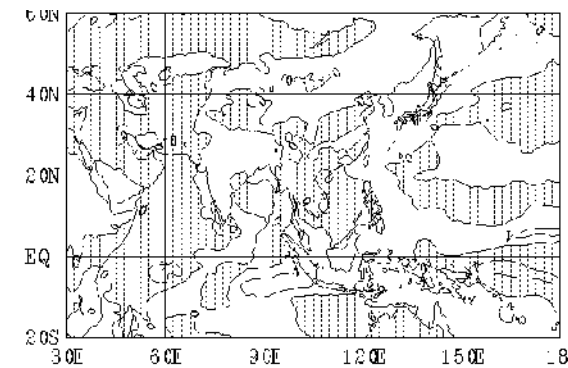
200hPa流線関数



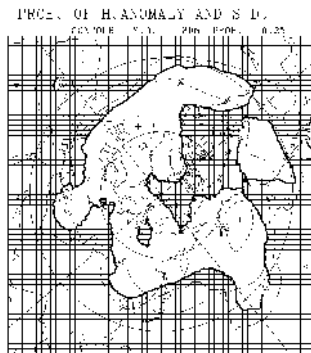
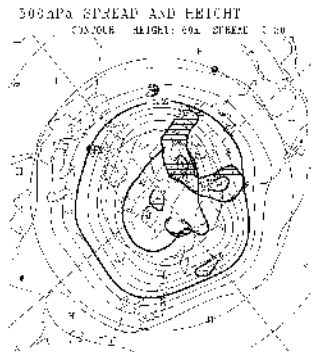
850hPa流線関数



降水量



予報資料の解釈(1か月) 北半球循環場

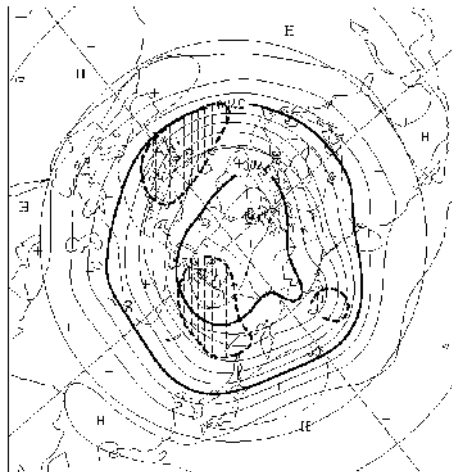


500hPa高度は、中緯度帯で帯状に正偏差。日本のはるか東で特に正偏差が強く、日本付近は西谷傾向。また、日本付近は広く正の高偏差確率50%以上の領域に覆われる。

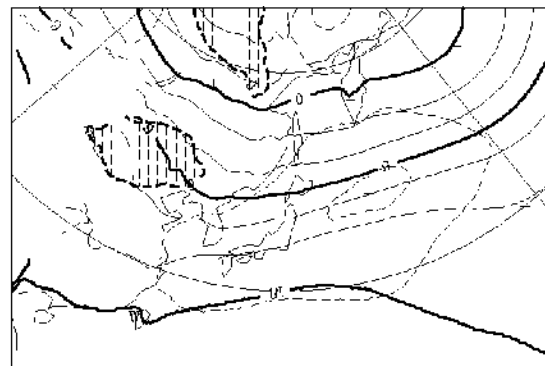
850hPa気温は、日本付近は正偏差。

海面気圧は、大陸と日本のはるか東で高気圧が強く、その間の北・東・西日本付近は気圧の谷となり、期間の前半を中心に、低気圧や前線の影響を受けやすい時期がある。その後は、東・西日本日本海側を中心に移動性高気圧に覆われやすい時期もある。沖縄・奄美では期間のはじめは太平洋高気圧に覆われやすい。

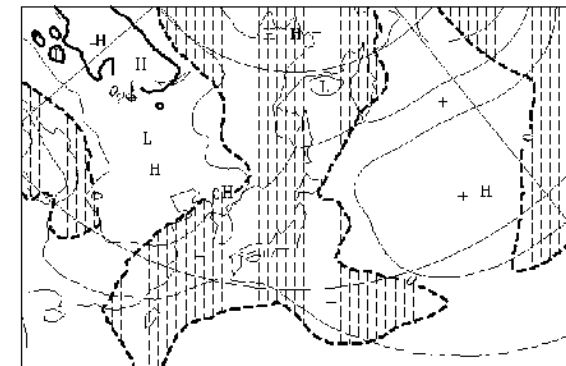
500hPa高度



850hPa気温

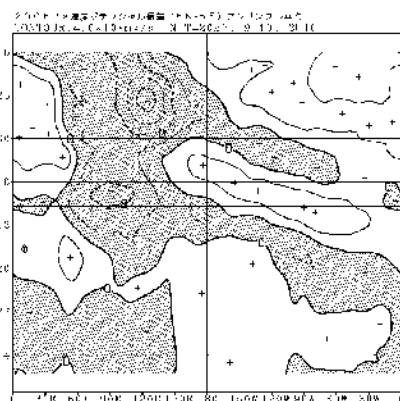


海面気圧



予報資料の解釈(各週) 熱帯の対流活動

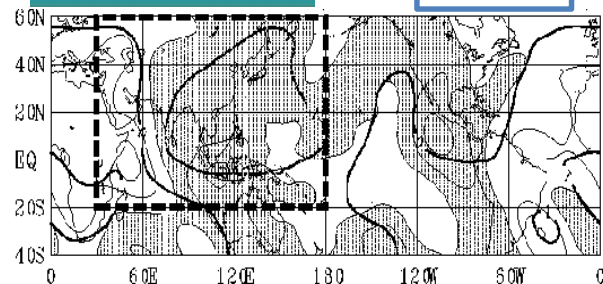
200hPa速度ポテンシャル偏差時系列



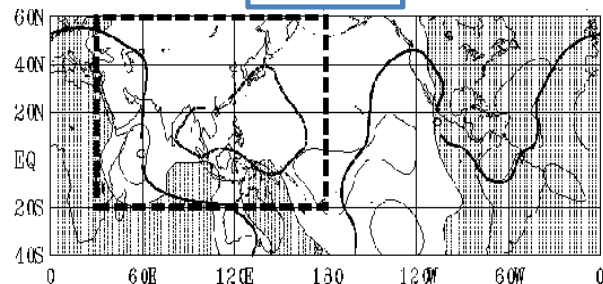
200hPa速度ポテンシャルはインド洋からインドネシア付近で発散偏差、日付変更線付近で収束偏差の傾向だが、季節内変動の影響を受けて、インド洋から太平洋赤道域の中部にかけて、期間のはじめには発散偏差域が、続いて収束偏差域が東進。降水量は、インド洋熱帯域の南東部からインドネシアにかけて多雨偏差が持続するが、一時的に2週目にはフィリピンの南で少雨偏差となる。また、日本付近は2週目に多雨偏差となる。

200hPa速度ポテンシャル

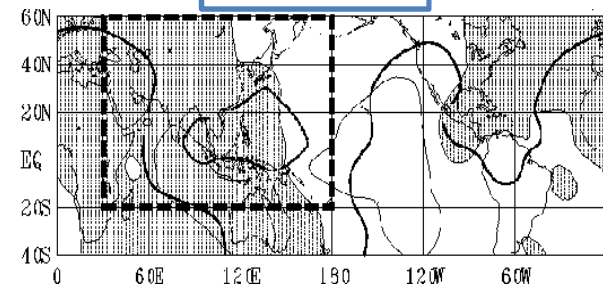
1週目



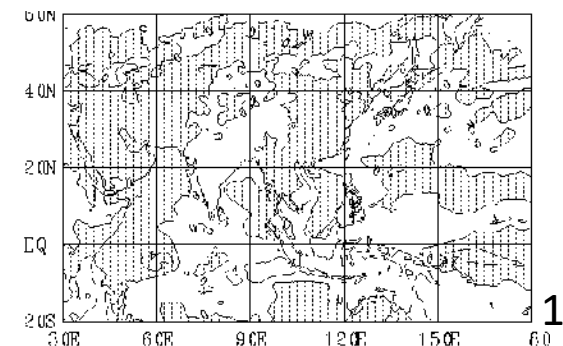
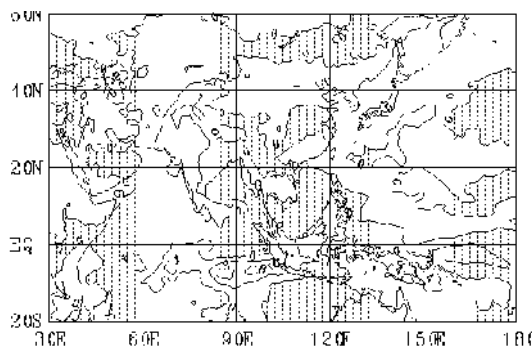
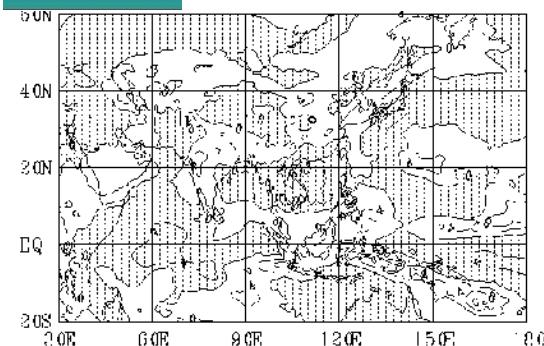
2週目



3～4週目



降水量



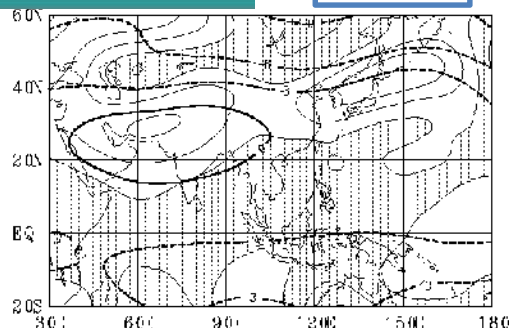
予報資料の解釈(各週) 熱帯循環場

200hPa流線関数は、1～2週目を中心に、日本付近は日本のはるか東に中心を持つ高気圧性循環偏差(北西からのロスビー波束伝播も寄与)に覆われ、西谷傾向。3～4週目も同様(高周波じょう乱の影響を示唆)だが西谷傾向は弱まる。

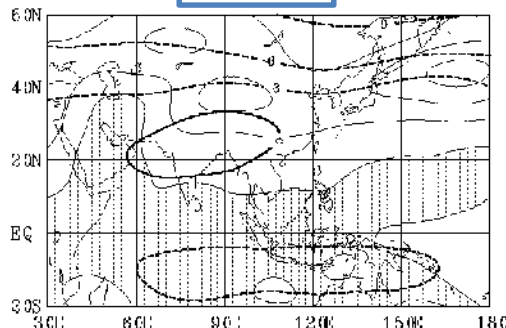
850hPa流線関数は、1週目は南西諸島中心に高気圧性循環偏差が強く(対流活動と上層の高気圧性循環偏差の影響)、東・西日本も覆う。2週目には日本の南で低気圧性循環偏差となり太平洋高気圧が弱まるが、3～4週目には日本の南は高気圧性循環偏差に戻る。この変化には熱帯の季節内変動も寄与しているが、不確実性が大きいことに留意。

200hPa流線関数

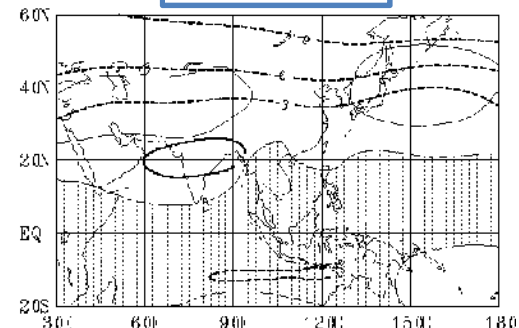
1週目



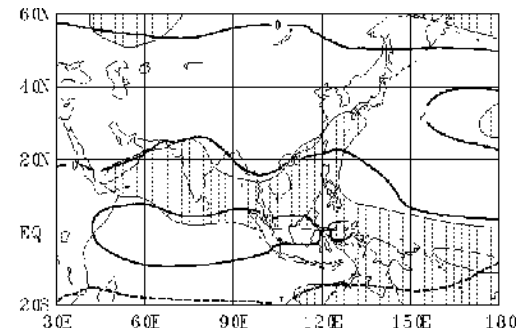
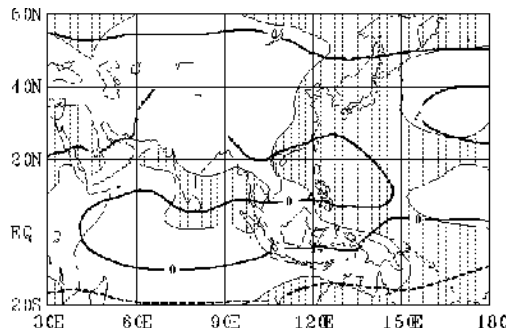
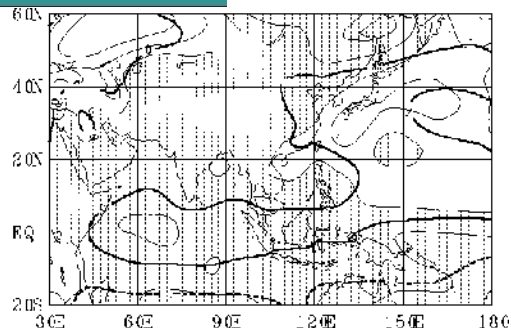
2週目



3～4週目



850hPa流線関数

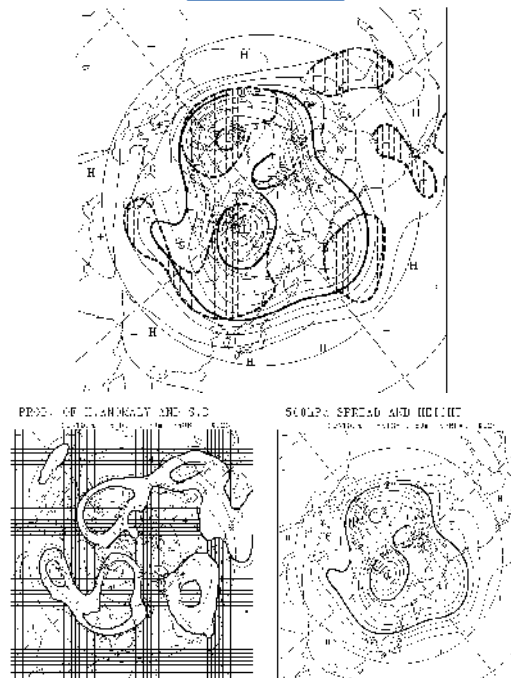


予報資料の解釈(各週) 北半球循環場

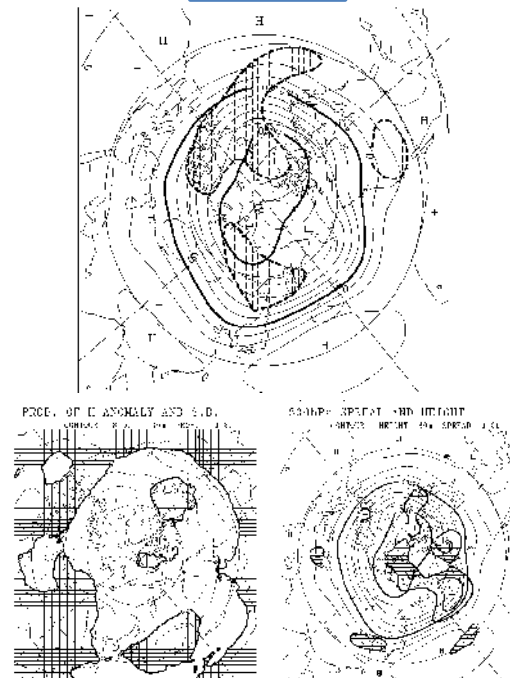
500hPa高度は、予報期間を通して日本付近は正の高偏差確率50%以上の領域にほぼ覆われる。正偏差の中心は日本のはるか東。1週目には中国東北区付近に、2週目には朝鮮半島付近に気圧の谷があり、日本付近は西谷となる。このため、1週目は北・東・西日本日本海側を中心に、2週目には北・東・西日本太平洋側も低気圧や前線の影響を受けやすくなる。また、2週目にはスプレッドの大きな領域が日本の南にあり、熱帯じょう乱の予測の不確実性を示している。3～4週目には、西谷傾向が弱まる。

500hPa高度

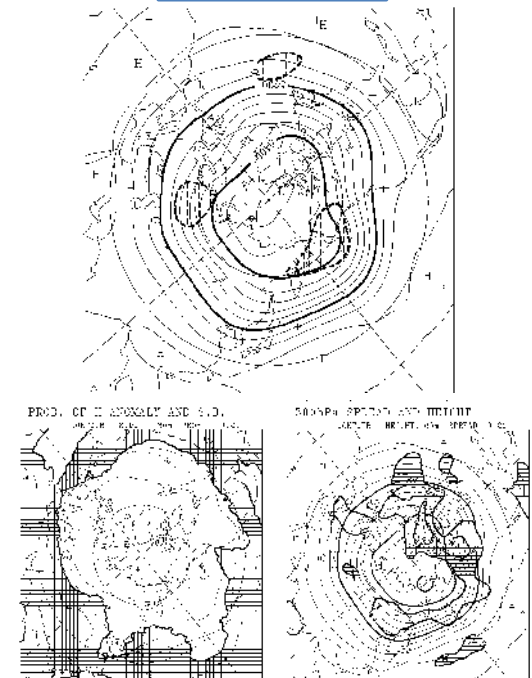
1週目



2週目



3～4週目



予報資料の解釈(各週) 日本周辺循環場

850hPa気温は、日本付近は正偏差が続き、特に1週目には大陸からのびる強い正偏差域が北・東・西日本中心に覆う。2週目には大陸の負偏差域が日本海西部まで南下し、日本付近では気温の南北の傾きが大きくなる。3～4週目には大陸の負偏差域はなくなる。

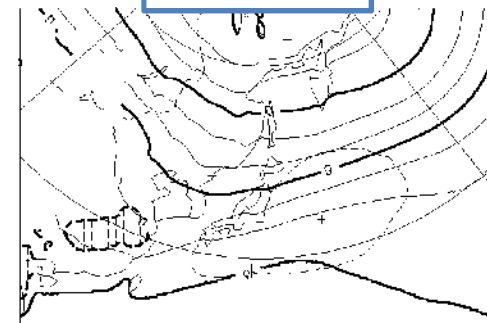
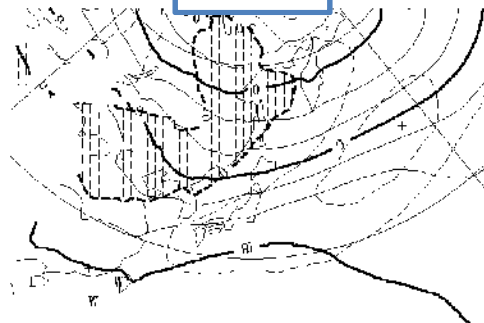
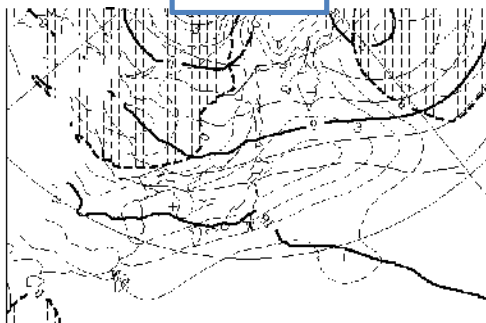
海面気圧は、1週目にはオホーツク海付近に低気圧があって気圧の谷が日本海にのびる。2週目には大陸と日本のはるか東で高気圧が強く、その間の日本付近は気圧の谷となり、北日本と東・西日本太平洋側を中心に低気圧や前線の影響を受けやすい。3～4週目には、日本付近の気圧の谷は弱まり、東・西日本日本海側は移動性高気圧に覆われやすくなる。沖縄・奄美は1週目は太平洋高気圧に覆われやすいが、2週目以降は湿った空気の影響を受けやすい時期がある。

1週目

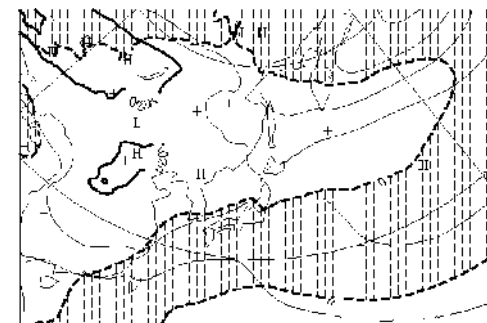
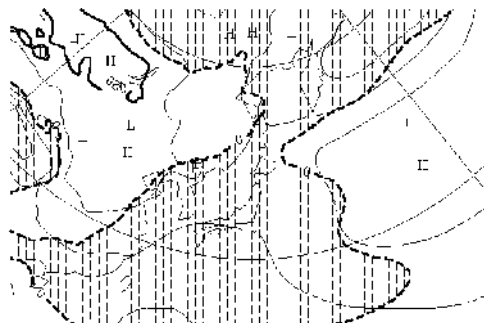
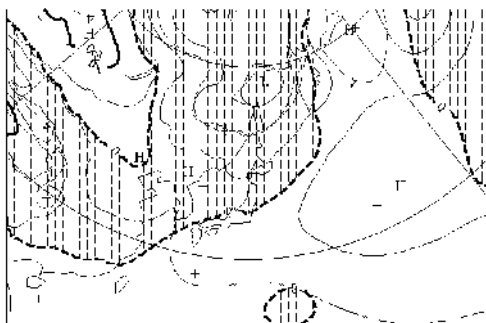
2週目

3～4週目

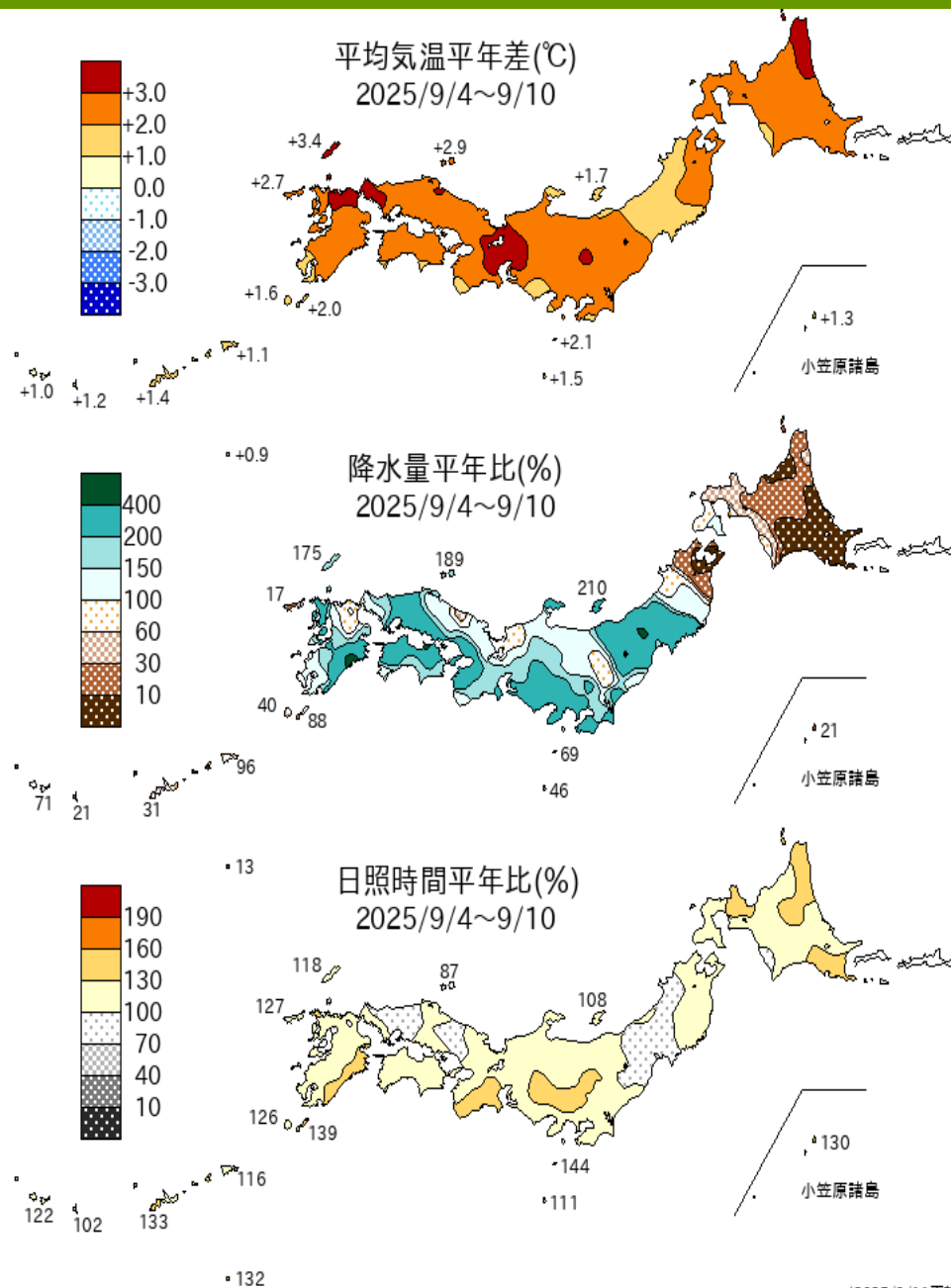
850hPa気温



海面気圧



(参考)最近1週間の天候経過



最近1週間(9月4日～9月10日)は、北日本では天気は数日の周期で変わりましたが、移動性高気圧に覆われて晴れの日が多くなりました。東・西日本では、天気は数日の周期で変わりましたが、台風第15号や前線の影響を受けて大雨となった所もあり、九州や静岡県、神奈川県では線状降水帯が発生し、静岡県などでは竜巻も発生しました。沖縄・奄美では太平洋高気圧に覆われて晴れの日が多くなりました。これらのことから、降水量は北日本と沖縄・奄美では平年を下回り、東・西日本では平年を上回った所が多くなりました。また、日照時間は平年を上回った所が多くなりました。気温は、暖かい空気に覆われるとともに、低気圧や前線に向かって暖かい空気が流れ込んだため、全国で平年を大きく上回りました。